

編集後記

今年 2008 年は慶應義塾創立 150 年の記念すべき年であり、11 月 8 日には記念式典が開催され、その後、慶應義塾では多彩な記念事業が予定されている。本誌では、今号の特集を「メディアセンターは今―慶應義塾創立 150 年を迎えて―」とした。メディアセンターでは、『慶應義塾大学メディアセンター中期計画 2006-2010』を掲げて事業展開を進めているが、各キャンパスの特性にあわせて、その歴史を振り返りつつ、今後の重点施策として各メディアセンターは、どのような課題に取り組んでいるのか、あるいは取り組んでいこうとしているのかについて各事務長に執筆してもらった。創立 150 年はあくまでも通過点であるが、次世代をめざしたメディアセンターの現在の姿として、お読みいただきたい。

2008 年 4 月、慶應義塾大学と共立薬科大学とは合併し、慶應義塾大学に新たに薬学部、大学院薬学研究科が発足した。これにあわせて、塾内で 6 番目のメディアセンターである薬学メディアセンター（芝共立薬学図書館）が発足した。杉本薬学メディアセンター所長の巻頭言にあるように、2008 年度は図書館システム統合にむけた作業、学術雑誌・電子ジャーナルの契約の見直しが最優先課題であり、薬学メディアセンターが他のメディアセンターと名実共に同じ環境となるよう、地盤固めをしている最中である。

そのほか、私立大学図書館協会 2007 年度協会賞を受賞した「デジタルで読む福澤諭吉：福澤諭吉著作デジタル・ギャラリー」に関する記事、2008 年に慶應義塾図書館所蔵の対馬宗家文書が重要文化財の指定を受けた記事、既に 30 名ほどの修了者を輩出した文学研究科図書館・情報学専攻情報資源管理分野の現状についての記事を始め、タイムリーで多様な内容をそろえた。先生方からのご寄稿については、ご多忙のところご執筆いただき、この場を借りて感謝申し上げる次第である。

本誌は、メディアセンターから慶應義塾大学関係者に対する発信であるが、そこに留まることなく広く他大学図書館などにも寄贈している関係から、図書館界に対する発信でもある。さらに第 10 号(2003)からは、Web でも発信している。

<http://www.lib.keio.ac.jp/publication/medianet/>

(村上 篤太郎)